

争つたこともあつて、醸造技術の改良には苦心を経たものであるが、要するにこれも水質のよいことが一原因でなくてはならぬ。年産額八十萬圓である。

次で清涼飲料水が五十萬圓あるが、これはアイスクレーキのために壓倒されかゝつてゐる。又必ずしもこの地の特産ではない。特産としては染手拭と晒布がある。工場が河岸にあつて豊富な河水を利用して操業してゐる。傘も特産の一つで、これも水に縁があると云へば云はれる。

農業では地下水の豊富なことが蓮根の栽培を盛にした。廣島縣の蓮根はその産額全國第一位にあつて、郡部にも相當に産するが市の産額が最も多く、年額約四十五萬圓である。(完)

薩隅地域に於ける園藝業

——主として蔬菜園藝について——

吉 田 主 計

目 次

- 一、園藝業發達の過程
- 二、風土性と園藝
- 四、代表的園藝地帯の概説
- 五、結 語
- 三、主要園藝作物の生産と仕向地

一、園藝業發達の過程概観

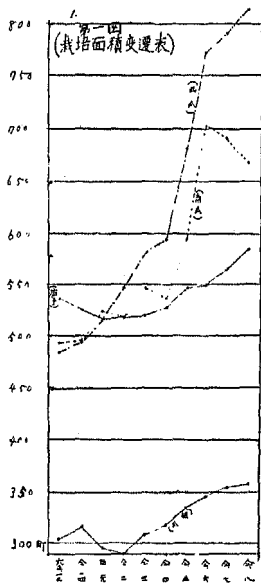
薩隅地域に於ける園藝業

101

二五

薩隅地域の蔬菜園藝が今日の集約的經營を見るに至つた歴史は極めて新しい。従つて其の地域的擴がりも分散的、特殊であつたが最近園藝組合の成立、活躍を見るやうになつて次第に栽培面積も増加し且集團的になつて躍進の一路を辿つてゐる。此の地域は比較的有利な自然條件の下に置かれてゐる爲、從來自給自足の生活に甘んじて斯業は殆ど顧みられなかつた。即ち甘藷の國で米以外の食料に恵まれてゐる關係上、現金収入の必要をさまで痛感しなかつた事や、煙草耕作地域にあつては其の賠償金の収入で農家經濟が潤された事が、中央市場から遠く運搬經費と日數に於て採算上不利である事等とも關聯して、蔬菜栽培は單に自家消費を充すに止まつてゐたのである。

第一圖



所が經濟界の不況は農產物價格の暴落となり、之が對策の一法として斯業の勃興が企劃されるに至つた事、一般社會人の生活程度の向上は所謂超季節的蔬菜を要求するに至つた事、更には水陸交通機關の完備せる事等に依り、茲に恵まれたる各種自然條件の上に立つて從來の農業の單純性より漸次營利的な畑作園藝化へ轉向の機運に至つたのである。斯くて蔬菜の種類栽培面積は急速に増加し販路も内地は勿論、鮮滿地方に迄進出するの盛況に至つた。主要作物栽培面積の變遷表は其の發達過程を物語るものである。

二、風土性と園藝

氣候的因子が斯業の發達に及ぼす制約は穀類、雜穀類に對するよりも著しいものである。此の地域は氣候條件に於て誠に天恵の地で早熟蔬菜園藝、抑制栽培地として好適である。即ち南海式氣候區に屬し年平均氣溫一六度——一七度、特に薩摩、大隅兩半島尖端部では一九度内外（枕崎五ヶ年平均一九度一、志布志同一九度七）を示し斯業の先進地房州の一五度四、沼津の一五度三、高知の一五度六に比し遙かに溫暖である。殊に早熟、抑制栽培に關係深かい冬季の氣溫に就て見るに最寒月と雖も八度内外を保ち且つ寒季が極めて短かいので好都合である。雨量は二〇〇耗以上の多雨地帶で其の季節的變化は梅雨期に最多であり、冬季四ヶ月が少雨である。雨量に於て斯業に影響の大きいのは連續的の降雨、永續的の晴天である。前者は作物の生理上不可なる事は勿論、蔬菜類の栽培期にあつては人工受粉に依らねば（昆蟲の活動中止の爲）結實困難の場合もあるし、後者は灰砂層の畑地、砂地利用の場合旱害を被る事となる。幸、昭和九年の旱魃の如き例外的少雨を除いて殆ど四五日毎に降雨を見るので斯業には良き影響を與へてくれる。

降雨日數表			昭和五—九年平均	
	枕崎	志布志		
1月	19	8		
2	18	9		
3	17	13		
4	15	14		
5	13	11		
6	16	15		
7	12	13		
8	15	12		
9	12	9		
10	11	8		
11	14	8		
12	16	10		
全年	178	130		

冬の降霜降雪は特に重大な關係を持つのであるが、南薩の枕崎に於ける状態は左表の通りであ

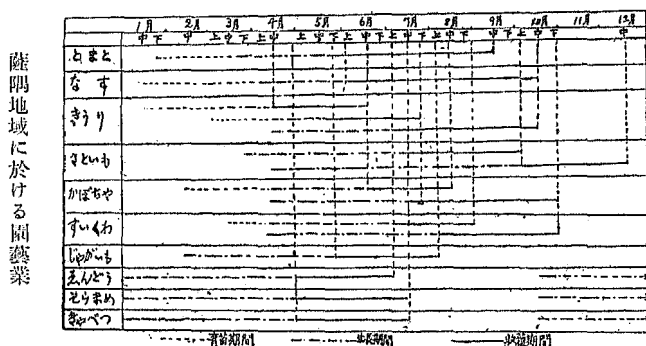
る。

	雪	霜
1月	$\frac{21}{5}$ 日	$\frac{25}{5}$ 日
2	$\frac{8}{5}$	$\frac{21}{5}$
3	$\frac{3}{5}$	$\frac{4}{5}$
4	0	0
5	0	0
6	0	0
8	0	0
7	0	0
9	0	0
10	0	0
11	0	$\frac{3}{5}$
12	$\frac{2}{5}$	$\frac{9}{5}$
備考	分母5ハ昭和 五年ノ意	同 左

半島尖端部も尙霜雪を見る（鹿兒島測候所管内の觀測所は本土に一九箇所あるが何れも無霜地でない）が降霜日數は極少いし降霜期間も内地では最短地帯に屬する。即ち枕崎に於て初霜一月九日終霜三月十八日（昭和九年）志布志に於ては初霜十一月八日、終霜三月十六日（昭和九年）である。此の事は蔬菜栽培にさしたる悪影響をもたらさず（幾分霜除けをなす程度にて可）殊に根菜類、葱、キヤベツの如きにあつては發育の害せられる事は殆どない。

主要園藝地域を概觀するに早熟栽培、抑制栽培を目指すには可成高温である事が必要である。其の好適地としては兩半島に於ける海岸附近の灰砂臺地の休閒地利用及び海岸砂地の經濟的利用である。特に後者は早作り地としては最適で此の砂地が全縣下に三〇〇餘町歩も存在する。其の内、利用砂地は薩摩半島西岸の笠砂村、萬世町から阿多、伊作、串木野方面に亘る延長七〇軒の吹上濱砂丘帶の内側一帯、及半島南岸の穎娃村（仙田、十町）、山川町に及ぶ砂地、大隅半島にては志布志灣岸の一六軒に亘る弧狀砂丘の内側（東串良、大崎、志布志）及び西海岸の花岡、垂水等に於ける鹽

第二圖 志布志附近に於ける蔬菜栽培期間



田跡等が著しいものである。以上の外、特殊園藝地として名高い南薩の指宿温泉地帯の蔬菜園藝、及び地方的消費都市鹿児島市を圍繞する近郊式園藝農村が各々自然的、人文的要因によつて夫々特異の發達を遂げてゐる。

三、主要園藝作物の生産と仕向地

此の地域の蔬菜の商品としての優越的地位は超季節的に供給し得ると言ふ點で他地方の品薄の場合に出荷して高値に評價されるのである。此の事は產出量の未だ少い事や、中央市場距離の大きい事に依る不利を補つてゐるのである。志布志附近に於ける蔬菜栽培期は表の通りで之に依つて風土の天恵に依存する季節外れの「走り」「遅れ」の可能な事や殆ど周年栽培してゐる様子がうかゞはれるであらう。作物中根菜類、葉菜類は普通一般農家で栽培される重要なものであるが自家消費量多く従つて市場向き蔬菜としては蕨菜類、里芋等が重要な役割を演じてゐる。

南瓜栽培中心地 中郡宇、谷山町、櫻島、伊敷等鹿児島市を圍繞する地域及び喜入、山川、笠砂、萬世、内之浦等、大部分黒皮早生種。

胡瓜栽培中心地 中郡宇、谷山、串木野、枕崎、西志布志等。

早熟蔬菜栽培事業成績

昭和9年 縣農會調查ニヨル

地

南⼭特産地團體名	面積	生産量	⑧加世田町園藝組合	實豌豆	10.0町	4,300 [㍑]	
①中郡宇蔬菜組合	20.0町	60,000 [㍑]	⑨萬世町園藝組合	一寸蠶豆	12.0	7,670	
②谷山町南瓜栽培改良團	20.0	60,000	⑩同	實豌豆	10.5	5,530	
③伊敷村蔬菜園藝組合	10.6	11,550	⑪同	西瓜	10.0	5,500	
④西武田園藝組合	11.0	44,000	⑫笠砂村農會	一寸蠶豆	13.0	3,324	
⑤西櫻島赤水南瓜改良團	10.0	29,550	⑬知覽町農會	早採甘藷	10.0	—	
⑥東櫻島村農會	15.1	10,130	⑭本城村農會	牛蒡	13.0	7,800	
⑦日置村南瓜栽培改良團	10.5	15,960	⑮西志布志村農會	牛蒡	6.5	7,800	
⑧帖佐村南瓜栽培改良團	5.0	12,500	⑯岩川町農會	牛蒡	10.0	3,100	
備考 販賣量 219,568貫(24017.9圓)			⑰末吉町農會	牛蒡	10.0	2,960	
里 芋			⑱新城村農會	莢豌豆	13.0	13,500	
⑫山川町出荷組合	8.0町	8,000 [㍑]	⑲同	馬鈴薯	10.0	24,000	
⑬加世田町園藝組合	12.0	1,800	⑳垂水町農會	莢豌豆	100.0	113,000	
⑭帖佐里芋栽培改良團	4.5	4,575	㉑同	馬鈴薯	45.0	64,000	
備考 販賣量 14,375貫(1974.7圓)			㉒同	トマト	12.0	66,000	
其 他	(種類)	(面積)	(生産量)	㉓牛根村農會	馬鈴薯	15.0	7,500
①谷山蔬菜改良團	茄子	10.0町	60,000 [㍑]	㉔東串良園藝組合	西瓜	24.6	87,950
②中郡宇蔬菜組合	胡瓜	20.0	80,000	㉕同	馬鈴薯	1.5	6,000
③喜入村農會	西瓜	10.0	35,000	㉖同	甘藍	7.5	18,500
④今和泉村農會	實豌豆	23.9	23,590	㉗花園村藷出荷組合	早採甘藷	10.0	2,100
⑤山川町農會	早採甘藷	11.2	—	㉘大給良横山園藝組合	牛蒡	11.0	33,000
⑥顯娃村農會	西瓜	10.5	37,500	㉙佐多農會	トマト	24.0	14,980
⑦同	早採白菜	10.0	60,000				

球

第二十七卷

第二號

107

三〇

里芋栽培中心地||中郡宇、西武田、谷山、伊敷、枕崎、知覽、潁娃、指宿、福山、牛根、小根占等。海岸砂地利用の代表作物。石川早生種が主である。

トマト栽培中心地||佐多、内之浦、櫻島、中郡宇、谷山、指宿等特に佐多が多く冬の真中にも阪神市場へ出荷。

茄子栽培中心地||指宿、谷山、枕崎、加世田、串木野、阿久根、川内等。

西瓜栽培中心地||谷山、指宿、山川、萬世、串木野、田布施、高江、東串良、西志布志、潁娃等砂地利用の作物である。(縣農會調査による斯業の成績表)之等の仕向地に就ては北九州工業地帶、山陽地方諸都市、阪神工業地帶、名古屋附近、京濱地方、朝鮮京城附近が主である。

四、代表的園藝地帶の概説

④指宿溫泉地帶 薩摩半島東南端部に於て西、池田、鰻池火山群と東、魚見嶽地塊との中間にある低地こそ「畑掘れば畑にも湯わき砂掘れば砂にも湯わく指宿の里」と歌はれる溫泉地帶で北西↓南東に柴立、里ノ湯、潟口、湊、摺ヶ濱等の溫泉が地下圻裂線上に排列される。湧出區域約二〇〇町步、此の豊富な湧泉と肥沃な沖積地、且つは溫暖氣候等の有利な因子を利用して鹿児島高等農林學校指宿試驗場が泉熱利用の園藝業を卒先開始した事に刺戟されて民間に於ても蔬菜類の促成栽培勃興の機運となつた。此の低地を冬季歩く者の眼に先づ映ずるのは卓越風を防ぐための高いスキ垣が群をなしてゐる事で、其の風蔭に溫床群が並び之には鑿井による地下溫湯(六〇度位)を鐵管で導き促成栽培を行つてゐる。斯様な溫床が町内約七〇個所に及び各溫床から平均約一、〇〇〇圓

を擧げると言はれる。鑽井は約四〇米から五〇米の深さで最高溫湯を得られると言ふ。現在では此の種の鑽井創設希望者激増し、溫泉の溫度の點が懸念されるので亂掘は許されぬ事になつてゐる。栽培品種は茄子が主で十二月に既に採收が始まり一月には中央市場へも出荷される。外にトマト、メロン、胡瓜等も漸次増加して來た。鐵道も開通したし園藝熱も益勃興して來たので愈々高度の園藝地域として進出する事と思はれる。要するに指宿は天恵の熱源によつて著しい特異性を發揮してゐるのである。

③鹿児島市に依存する園藝地帯 人口一八萬の消費都市を繞る地域は各々地位の特殊性と風土より獨特の園藝が發達してゐて地理的研究の對照としては興味深いものがある。

① 櫻島の園藝一斑

④ 地形的に耕地の制約を受ける此の島の園藝は火山麓に發達した混扇地域の利用であるから其の核心は北西海岸近いファンの部分である。

⑤ ファンの土壤は殆ど火山灰、砂礫より構成された火山地域特有の農業地であり氣候條件も斯業により影響を與へる。

⑥ 四軒の對岸に人口十八萬の市場を控へて絶好の位置を占める。島の農業相が寄木細工的複雑さ、高度の集約的經營である事何れも前述の事情に依存すると言へるであらう。従つて作物は殆ど凡て市場向き換金作物で自給作物は極めて少く生活必需品は米から移入する經濟様式である。

⑦ 使用肥料の大部は市の人糞尿で樽一本七錢—十五錢のものを部落持ちの舟で低廉に運び得るの

で肥料代としての現金支出も少なく之亦大なる恩恵である。

⑧作物中枇杷と蜜柑と根菜類が主役。枇杷は市以外に北九州、京阪、遠く大連迄進出、早期出荷（走りは四月下旬）風味良好に名高く在來の小形種を改善して商品性を一層高めつゝある。山麓面に擴がる枇杷園には毎年約十萬圓の黄金が實る。西道、藤野、武部落中心の在來小蜜柑は良味ながら市場向として商品性低く温州への轉向が著しい。鹿兒島名物として高評の櫻島大根は島の土質に好適し松浦、白濱、高免が中心地で年々約五萬圓の收入をあげる。漬物用、干大根用の練馬大根の栽培も亦盛である。

⑨西瓜、南瓜、里芋の早熟栽培地としても卓越し西瓜は六月下旬既に走りを出して熊本、奈良、愛知産よりも高い手取値段となると言ふ。要するに優れたる地理的條件の下に土地經濟化に力を注ぎ園藝地域としての發達を遂げつゝ外は市場圏の擴大に、内は品種の商品性向上に努力し卓越せる早熟地として世に現はれつゝあるのである。

②吉野臺地の特殊園藝

①鹿兒島市の北部の廣大な灰砂臺地は極めて緩斜した臺地面に樹枝狀必縱谷の彫刻を始めた幼年臺地である。

②嘗つては牧場として利用された地であるが今は全面耕地化されてゐる。

③市に最も近い雀ヶ宮、帶迫、七社、中町等の聚落は鹿兒島市に依存する特殊園藝地帯として特色を持つ。火山灰の風化土である所謂ボツコ土は苗木育生に好適してゐる事や、封建時代島津家に

於て御庭師を代々吉野に設け植木類の仕立をなさしめた歴史や、位置の優れたる事等の諸條件に依つて夙に庭木栽培、花卉(切花)栽培、盆栽育苗園藝等の發達を見たのである。毎年鹿兒島市に開かるゝ木市の地元として卓越した地位を保ち野菜、切花の擔ひ賣りが終年臺地から市へ行列をなす近郊村である。吉野に於ては自然性への適應が歴史的に進化した事、市街接續地から臺地奥部へ景觀が漸移する事等が見られる。臺地面の今日の不完全な交通路が面目を改める時、全面的に一層集約化して發展する事であらう。

③市の西南近接地域。市の一部となつた西武田、中郡宇、及谷山町等は何れも近郊的園藝地として市と密接な關係を有するのであるが之は前掲の早熟蔬菜栽培事業成績に譲り茲には省略する。

五、結 語

①薩隅地域の園藝業は農村經濟の不況、嗜好の向上等の時代性に端を發した。

②著しい發達を見つゝあるのは自然の助長條件に依存する事が大きい。即ち氣候は早熟、抑制栽培によき影響を與へ土地に就ては利用可能の砂地、灰砂臺地の休閒地が廣い。

③斯業の分布は兩半島の海岸地方に存し最近團體的に發展して來た。

④市場向きとしては蔬菜類が主きをなし其の仕向先は北九州、山陽一帯、阪神、名古屋、東京等の文化地帯である。

⑤特色ある園藝地帯として指宿は泉熱利用の促成栽培に櫻島、吉野は市の近郊村として特異の發達を遂げた。

參考文獻

氣象年報自昭和五年至昭和拾年 鹿兒島測候所

鹿兒島縣の生産額 鹿兒島縣知事官房統計係刊行

東京市近郊に於ける土地利用 地理學評論(昭五、一) 西水牧郎氏

鹿兒島市の郊外園藝地帯として發達せる櫻島火山麓地域の利用 石橋幸雄氏

農報(農業風土記) 鹿兒島縣農會發行

統計類 縣農會の調査せるもの

指宿の旅 拙稿、鹿女師校友會誌(昭、八)

鹿兒島市に於ける木市に就て 拙稿 地理と經濟(昭二一、六)

火山學說史(四)

山田節三 譯

然し、他の地域では、事實の觀察から導かれた結論が、歐洲學界には注意されることなく、該地方にのみ限られたものであつた。斯くて、ラテン・アメリカでは、地震或は火山破裂に際して、泥や水の氾濫が度々觀察され、火山を火

の山(Fuerberge)と水火山(Wasser vulkane)とに分類するに至つたが、これについて歐洲ではフンボルトA. von Humboltの大旅行まで、何等注意される所がなかつたのである。一五八〇年 Sao Jorge に於て、或は一七五九年 r Gouillo